

# 2007 年度 修士論文

大学キャンパスが周辺地域に及ぼす影響－東京を事例として－

Study on Influence that university campus exerts on surrounding area:Tokyo as a case

梅岡 恒治

Umeoka, Koji

東京大学新領域創成科学研究科

社会文化環境学専攻

## ▽目次

## 第1章 序

1.1 研究の背景	4
1.2 研究の目的	4
1.3 研究の方法・対象	5
1.4 用語の定義	5
1.5 論の構成	6

## 第2章 大学キャンパスの空間的特性

2.1 はじめに	8
2.2 歴史	8
2.3 立地・交通	12
2.4 規模・形態	15
2.5 開放性	20
2.6 まとめ	24

## 第3章 街における大学キャンパスの評価

3.1 はじめに	27
3.2 評価対象	27
3.3 大学キャンパスのイメージ	29
3.4 大学キャンパスの評価	33
3.5 まとめ	35

## 第4章 大学キャンパスの文化的価値

4.1 はじめに	37
4.2 波及的価値	37
4.3 空間的価値	43
4.4 社会的価値	52
4.5 まとめ	62

## 第5章 総括

5.1 大学キャンパスの存在意義	65
5.2 今後の大学キャンパスの展望	65

付録1: 東京の大学キャンパス航空写真	67
---------------------	----

付録2: 東京の大学キャンパス・データベース	79
------------------------	----

出典・参考文献	87
---------	----



## 1.1 研究の背景

大学キャンパスは、高等教育の場としての役割を担うと同時に、学生数の増加につれ、その数・規模を拡大させてきた事で、現代都市を構成する一つの要素としても無視できないものとなってきた。一方で、大学全入時代における大学のあり方、工場等制限法の撤廃に伴うキャンパスの移転の問題等が昨今議論されるようになっている。

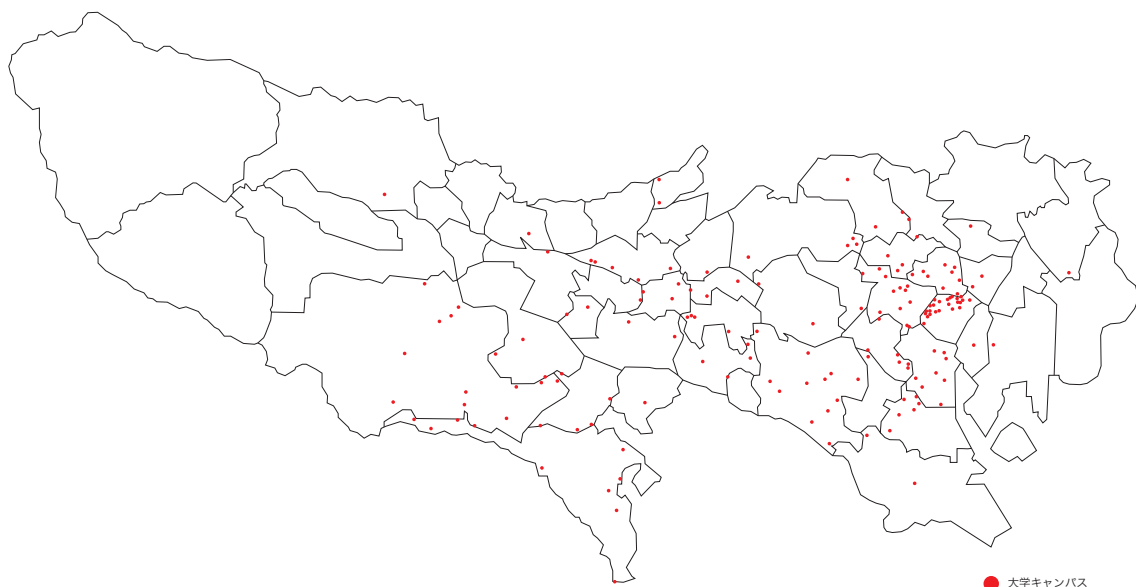
都市の一つの要素として、大学キャンパスが周辺地域に良い影響を及ぼすものとするならば、時代の変化と共にキャンパス空間が失われてしまうことは問題であると考ええる。

大学キャンパスと周辺地域の良い関係性を示すものとして、学生街の形成が挙げられるが、学生街については様々な視点から既に議論がなされている。しかし、大学キャンパスが周辺地域に及ぼす影響は学生街に限らず多様に存在するものと考えられる。その多様な影響は大学キャンパスの文化的価値であると言えるが、その文化的価値を明確に説明した論文は存在しない。そこで、大学キャンパスの文化的価値を明示することで、周辺地域における大学キャンパスの存在意義を問い直すことは重要であると考えられる。

## 1.2 研究の目的

本研究の主題は、大学キャンパスは周辺地域において存在すべきか否か、そして存在すべきであるとするならば、どのようにあるべきかを明らかにすることである。そこで、本研究は、(1) 現状における大学キャンパスの周辺地域に対する特性を把握した上で、(2) 周辺地域において大学キャンパスがどのように評価・イメージされているかを明らかにする。そして、(3) 大学キャンパスが周辺地域に対して持つ文化的価値を解明することで、都市における大学キャンパスの存在意義を明確にすることを目的とする。

図1 東京における大学キャンパスの立地

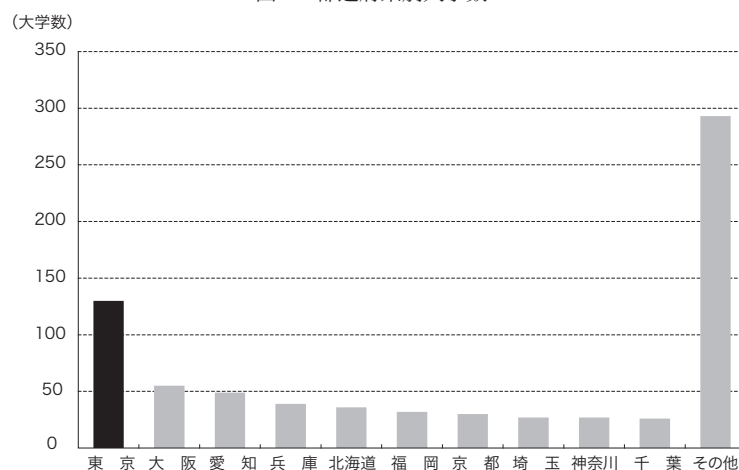


### 1.3 研究の方法・対象

本研究は、大学キャンパスが周辺地域に対して持つ文化的価値を明らかにするものであるため、常に他の施設と比較することによって、大学キャンパスの持つ文化的価値の独自性、有用性を、数値的・図的・記述的方法によって明らかにするという方法をとる。

研究対象としては、東京都内に立地する 121 大学 161 キャンパスを対象とする。東京を対象にするのは、東京が全国で、最もキャンパス数の多い都道府県であること、大学の起源である東京帝国大学等長い歴史を持つ大学を数多く有すること、都市規模に関連して都心から郊外までキャンパス立地・形態が多様であること、の3つの点によっている。

図2 都道府県別大学数



### 1.4 用語の定義

ここでは、本論文を読むにあたって説明が必要であると考えられるもの、頻繁に用いられるものに関して、説明をする。

#### ■「大学キャンパス」:

大学が一定の領域において占有していると考えられる部屋、建物、敷地を含む空間全体をさす。例えば、早稲田大学の西早稲田キャンパスは複数の敷地を所有しているが、それらを含む領域全体を大学キャンパスと呼ぶこととする。また、デジタルハリウッド大学は建物の中の一部のみを占有しているが、本論では部屋のみを有するものに関しても大学キャンパスと呼ぶこととする。

#### ■「学生街」:

大学生が多く利用すると考えられる飲食施設、居住施設等を含む、大学周辺地域に広がる空間領域全体をさす。

「学生街」の構造に関しては、本論文の第4章で詳細に明らかにすることにする。

#### ■「文化的価値」:

周辺地域に対して良い影響を及ぼす要素とその内容をさす。

## 1.5 論文の構成

以下に論文の構成を示す。

### 第2章

現状における大学キャンパスの周辺地域に対する特性を把握

### 第3章

周辺地域において大学キャンパスがどのように評価・イメージされているかの解明

### 第4章

大学キャンパスが周辺地域に対して持つ文化的価値の解明

### 第5章

第2.3.4章を踏まえた上で、都市における大学キャンパスの存在意義を明確化

---

## 第2章 大学キャンパスの現状

## 2.1 はじめに

本章では、歴史、立地・交通、形態・規模、開放性の側面から調査することで、大学キャンパスが東京において都市を構成する一つの要素として存在していることを明らかにする。調査にあたっては、各大学のHP、『全国大学一覧』を参照した他、大学へのヒアリングを行い、東京における大学キャンパスの所在地、設置年等の情報をデータベース化した。本章では、そのデータを元にグラフ等を作成した。

## 2.2 歴史

本節では、東京の大学キャンパスについて見ていく前に、そもそも大学空間とは何であったのか、そして日本の大学空間はどのようにしてできあがったのかについて触れる必要があると考え、既往文献（主に岩城和哉『建築巡礼 37 知の空間カルチュラタン・クォードラングル・キャンパス』）を元に大学の歴史について概観する。

### ■「場／部屋」から「建物」としての大学空間へ

大学の原初的空間はヨーロッパ中世にまで遡る。それらは、イタリアのボローニャやパリのカルチュ・ラタンと呼ばれる地域で現れた。その当時は、明確な区切りとしての大学空間は無く、広場や通りもしくは、集会所等の一室で教師が民衆に教え説くという形がとられていた。その後、その形式が知れ渡り、有名な教師があらわれるようになると、多くの学生がヨーロッパ中から集まるようになり、大学空間の大移動がヨーロッパで起こることになる。しかし、15世紀初めには、社会的に認知されるようになり、大学空間は固有の場所を占めるようになり、学寮や図書館といった建物を所有するようになるのである。



図3 ポルティチ, ボローニャ



図4 ピアッツァ・マッジョーレ, ボローニャ

### ■大学空間の形式

建物を所有するようになった大学はヨーロッパ各地に拠点をつくるようになるが、その一つの代表例がイギリスのオクスフォードとケンブリッジである。この2つの大学は、全課学寮制で、学生は大学の所有する学寮に住むことが義務づけられた。そして、学生が増えるにつれて、これらの大学の空間は拡大していき、クォードラングルと呼ばれる中庭を囲んで建物が建つという形式がつくられていくことになる。この形式は、ヨーロッパ各地に広まったわけではないが、周辺に影響を与えながら、各地方に独自の大学空間の形式をつくりあげていくことになる。





図5 ケンブリッジ



図6 トリニティ・カレッジ, ケンブリッジ

### ■近代大学の誕生

大学空間は拡大したが、決まった大学の制度を確立するまでにはいかなかった。しかし、産業革命が起こり、ヨーロッパに近代化の波が押し寄せると、大学もその影響を受けることになる。そして、誕生したのが近代大学としての制度であった。それはつまり、国家からの学問の自由であり、未知の領域を探究する研究のための学問空間の誕生であった。そして、その制度を実現してつくられたのがドイツのベルリン大学であった。

### ■領域としての大学空間

近代大学の成立したヨーロッパから離れて、アメリカに目を移すと、アメリカではキャンパス形式と呼ばれる独自の形式がつけられつつあった。広大な原野が広がるアメリカでは、原っぱを意味するカンポスから派生した、キャンパスと呼ばれる、広大な敷地を囲い込むことで生まれる大学空間がつけられるようになった。それはまさしく、領域を囲い込むことでつくられる大学空間であり、建物としての大学空間から領域としての大学空間へ変わっていったことを意味している。



図7 マサチューセッツ工科大学



図8 ヴァージニア大学

### ■日本における大学空間

欧米で大学空間が確立してから、明治期の文明開化の流れとともに、日本は大学空間をようやく設立させることになる。その起源は昌平坂学問所、開成所、種痘所にあり、それぞれ昌平学校、開成学校、医学校へと変遷し、日本初の大学である東京大学が明治10年に誕生するのである。大学空間の形式は、アメリカのキャンパス形式を採用したもので、大名屋敷であった敷地をキャンパスの敷地とし、大学建物がつけられていった。東京大学の影響は大きく、日本

では多くの大学がこのアメリカ型のキャンパス形式を各地で採用することになる。

#### ■東京における大学の拡大

こうして誕生した日本の大学空間は、法制度の整備が進むにつれ、その数を増やしていくことになる。しかし、大学の増加は工場等制限法により、都心から郊外へと移るようになる。具体的な大学キャンパスの立地の変遷は次節で見ていくことにするが、この後学生数の増加→大学キャンパスの増加→郊外化を経て、2002年の工場等制限法の撤廃を受け、都心回帰の動きが出始めるといふ現在に至るのである。

図9 大学史

	12c	13c	14c	15c	16c	17c	18c	19c	20c	20c後半	21c
大学空間	場・部屋としての大学空間 建築物としての大学空間 領域としての大学空間										
ダイアグラム	原初空間 クォードラングル モダンシステム										
フランス	カルチェ・ラタン 学間に置ける場や部屋の集合体。一般的にはバリの一地区を基す。										
イタリア	ポローニヤ大学 学生組織 教養を授けた人 法学、医学										
イギリス	オックスフォード ケンブリッジ 学寮＝カレッジの発達										
ドイツ	クォードラングル 四方を囲まれた四角い中庭をもつ 大学建物の配置形式。イギリスで発達										
アメリカ	近代大学の理念 未知の学問を学ぶ 場所としての大学 学位制度										
日本	キャンパス 原っぱが原義。プリンスン 大学の周いのある原っぱが元と される。次第に大学空間全体をさす ようになる。										
	アメリカでキャンパスの 同時多発的発生 地理的拡散性 非都市 地域との親和										

明治4年	明治5年	明治10年	明治19年	大正7年	大正12年	昭和23,24年	昭和34年	平成14年
文部省設置	近代学校制度	東大設立	帝国大学令	大学令	関東大震災	新学制	工場等制設法制定	工場等制設法撤廃
昌平校学園所 (湯島型)	昌平学校	昌平学校	昌平学校	昌平学校	昌平学校	昌平学校	昌平学校	昌平学校
開成所 (九段下→三ツ橋)	開成学校	開成学校	開成学校	開成学校	開成学校	開成学校	開成学校	開成学校
権原所 (若本町→和泉橋南院)	権原所	権原所	権原所	権原所	権原所	権原所	権原所	権原所

### 2.3 立地・交通

本節では、大学キャンパスの立地変遷と、立地分布の鉄道との関連性、駅からキャンパスへのアクセスを見ることで、大学キャンパスと市街地との関連性を指摘する。

#### ■立地

現在東京都にある 121 大学 161 キャンパスを、作成したデータベースを元に設置時期毎に分類して、東京都 23 区の地図に 20 年単位でプロットした。

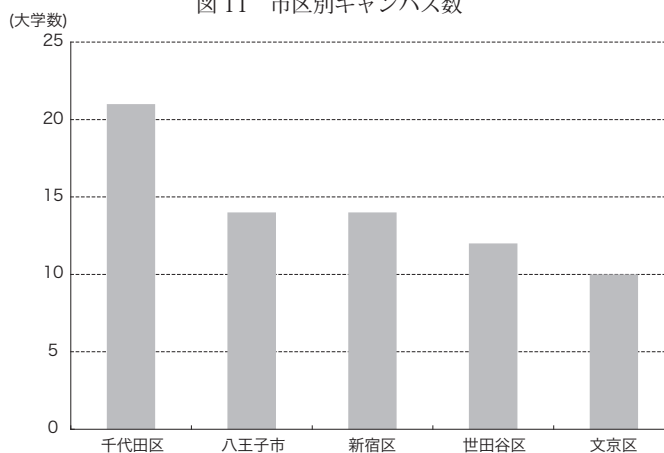
図 10 大学キャンパスの分布変遷



この立地地域の変遷を見ると、工場等制限法(1959・1964年)の制定により大学キャンパスが郊外へ移転し、2002年の撤廃により都心へ回帰したことが読み取れる。

また、市区ごとに大学キャンパスがどれだけ立地しているかの表を示すと、以下ようになる。

図11 市区別キャンパス数



このように見ると、大学キャンパスが千代田区に集中して立地していることが分かる。これは、「日本のカルチャータン」もしくは、「神田駿河台学生街」と呼ばれる駿河台地区での大学キャンパスの集中立地に起因している。23区以外では、唯一八王子市が高いキャンパスの集中立地を示していることがわかる。

#### ■交通

これは都心部での立地の在り方と異なっていることを、鉄道とキャンパスの関係を見ていくことで明らかにする。まず、鉄道とキャンパス立地を重ねあわせた地図と路線ごとのキャンパス立地数を示す。

図12 鉄道と大学キャンパス

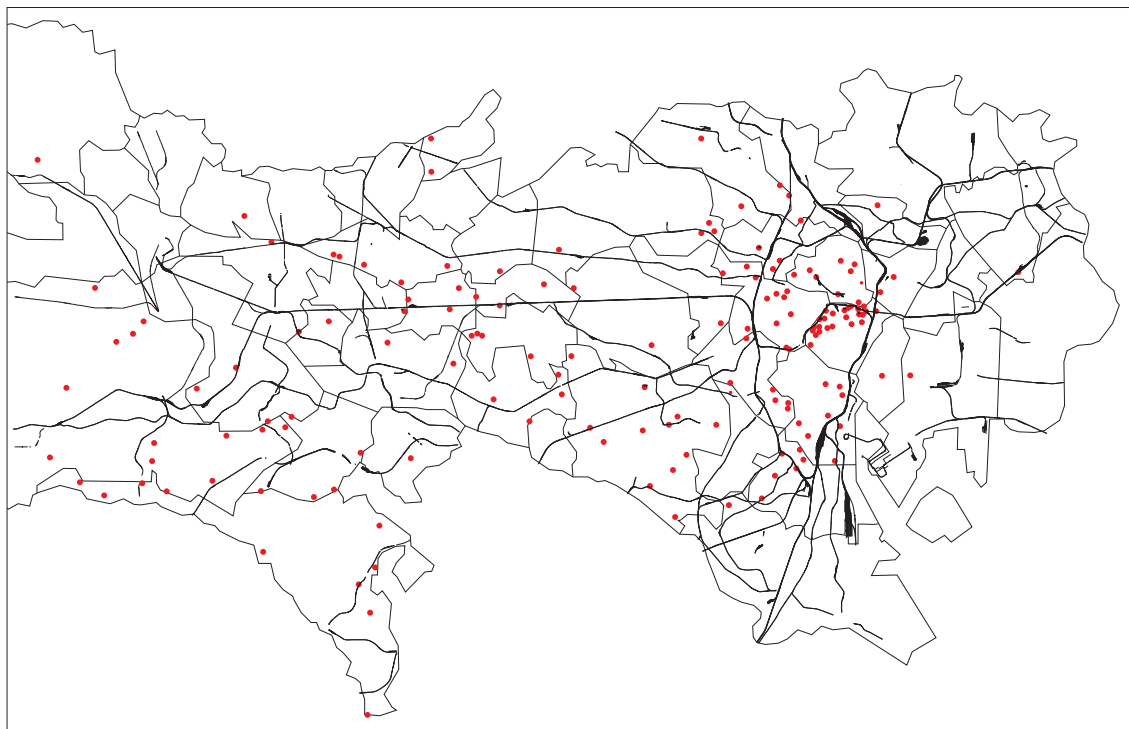
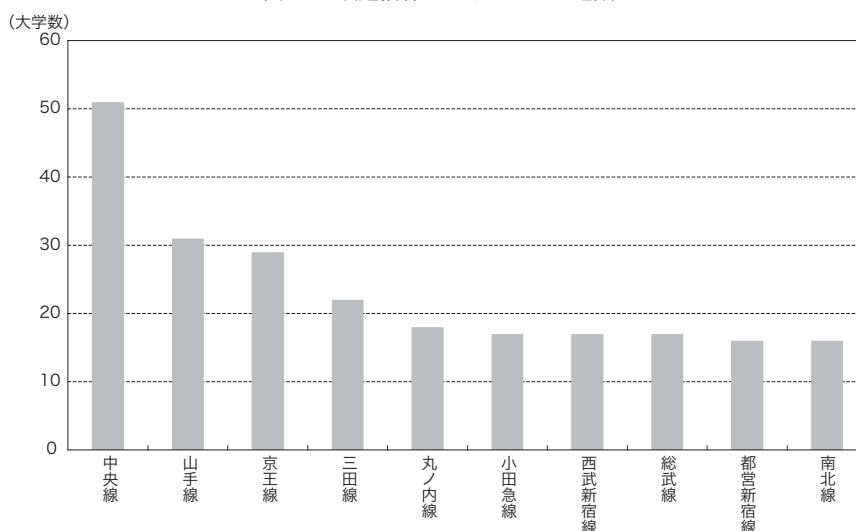


図 13 鉄道沿線のキャンパス立地数

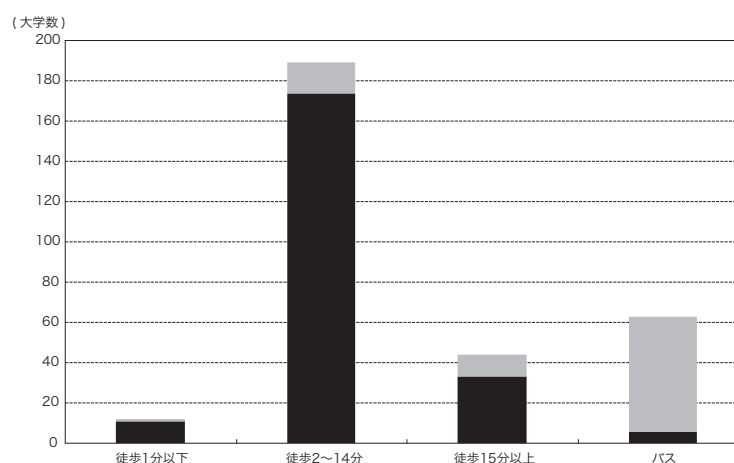


これらの図表から読み取れることは、まず路線近辺のキャンパス立地数を見ると、中央線沿線、京王線沿線に大学キャンパスが数多く立地していることである。これは、キャンパスの変遷図で示したように、東京の拡大、鉄道の拡大と共に、大学キャンパスが拡大していったことを表している。これは学生数の増加と共に、大学キャンパスが敷地を拡張する必要に迫られたことに起因している。

続いて、キャンパスの立地と鉄道を重ねあわせたものを見ると、郊外において大学キャンパスが鉄道と近接関係にないことがわかる。

具体的に、駅からキャンパスまでのアクセスにかかる時間の分布を 23 区内と、23 区外で示すと以下のようなグラフになる。

図 14 駅との距離からキャンパス立地



この図を見ると、郊外において大学キャンパスが駅から遠い位置に立地しており、都心と郊外では駅との関係において、キャンパスの立地の仕方が異なっていることがわかる。



図 15 大学キャンパスまでのアクセス分類

駅直結型	徒歩型	バス型
キャンパスが駅に直結しているタイプ。	キャンパスが駅から徒歩 10 分程度以内に立地しているタイプ。	キャンパスが駅から徒歩 15 分以上かかり、バスでアクセスするタイプ。
学生アクセスと市街地の関連性低い。	学生アクセスと市街地の関連性高い。	学生アクセスと市街地の関連性低い。

先ほどのグラフから大学キャンパスの立地を上記のように分類すると、大学までのアクセスが徒歩 1 分以下のものを駅直結型、徒歩 2 分から 15 分までのものを徒歩型、徒歩 15 分以上のものとバスのものをまとめてバス型として考えられる。

徒歩型は学生が大学キャンパスに至るアクセス空間が存在するが、駅直結型とバス型の場合、学生が大学キャンパスへ至るアクセス空間がない、もしくは別の交通手段にとって代わられるということを意味している。これは、大学キャンパスと駅周辺に広がる市街地との関連性に関わってくる問題であると考えられるが、徒歩型の場合、市街地との関連性が高いのに比べ、駅直結型とバス型は市街地との関連性が低いアクセスとなっていると言える。

つまり、都心においては、市街地との関連性が高いキャンパス立地をしているが、郊外においては市街地との関連性が低いキャンパス立地をしていると言える。

## 2.4 規模・形態

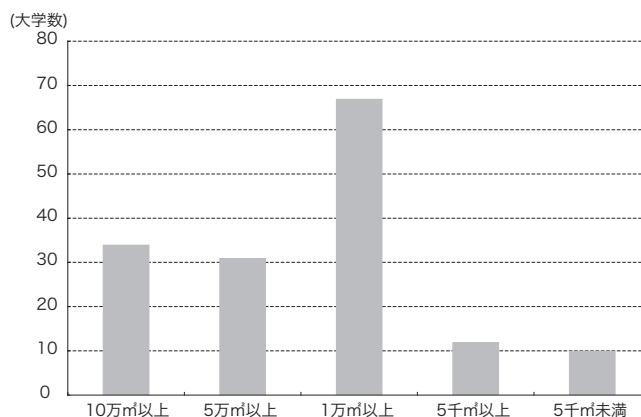
本節では、Google Earth を元に算出した各キャンパスの敷地面積と、各大学の HP にあるキャンパスマップを参考にしながら、現状における大学キャンパスの規模・形態について考察する。

### ■規模

本研究は、大学キャンパスと周辺地域における関係性を考察するものであるため、各大学のもつそれぞれのキャンパスの敷地面積がどれほどの規模を持っているかが重要である。しかし、文部科学省の統計資料、『全国大学一覧』、既往文献、各大学の HP を見ても、東京における各大学キャンパスの敷地面積を載せているものは存在しない。そこで、Google Earth に示される大学キャンパスの敷地領域を元に、大学キャンパスの敷地面積を割り出し、データベース化した。ただし、大学キャンパスは複数の敷地にまたがって存在しているものや、附属施設(病院・小学校・中学校・高等学校)をもつものが存在しているため、それらをまとめてキャンパスの敷地面積として計算している。

このデータを元に、まず東京における大学キャンパスの敷地面積を分類した表を以下に示すことにする。

図 16 敷地面積分類表

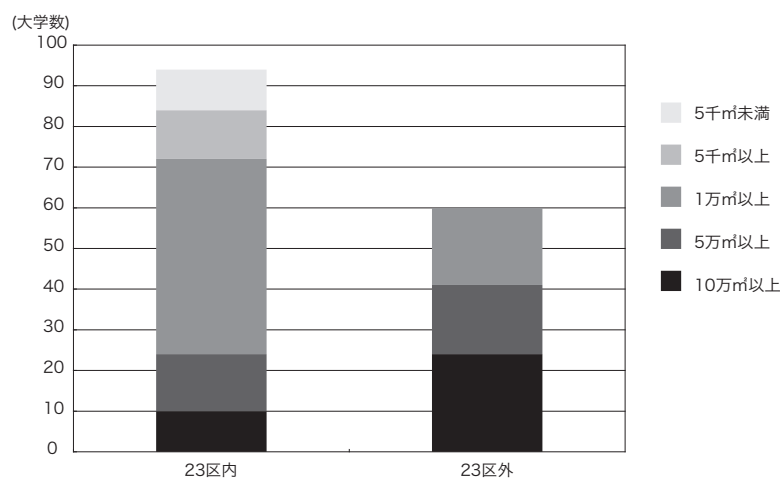


この表を見ると、大多数の大学キャンパスが1万㎡以上の敷地をもっていることが分かる。また、大学キャンパスの敷地面積の平均値としては、約7万5千㎡となっている。この大きさを都市において位置づける為に、次ページに他の大規模施設と比較した図を示す。

次ページを見て分かるように、大学キャンパスが大規模商業施設、大規模公園といったものと同じほどの敷地面積をもっていることがわかる。これを見れば、いかに大学キャンパスが東京において大規模施設として存在していることが分かる。

次に、立地地域による敷地面積の変化について見てみることにする。

図 17 立地別敷地面積



これを見ると分かるように、都心では例えば法政大学、明治大学のような1万㎡～5万㎡の大学が数多くあるのに対し、郊外では首都大学東京や国際基督教大学のような5万㎡以上の大学が半数以上を占めていることが分かる。

これはつまり、立地の変遷でも示したように、学生数が増大したにもかかわらず、大学キャンパスが工場等制限法により都心にキャンパスを拡大できなくなり、郊外へと拡大していくにあたり、大規模な敷地を取得していったということである。



図 18 敷地面積の比較 SCALE1:25000



東京大学  
本郷キャンパス  
537613 m<sup>2</sup>



東京工業大学  
大岡山キャンパス  
214017 m<sup>2</sup>



早稲田大学  
西早稲田キャンパス  
107707 m<sup>2</sup>



青山学院大学  
青山キャンパス  
105896 m<sup>2</sup>



神宮外苑  
455951 m<sup>2</sup>



日比谷公園  
161637 m<sup>2</sup>

10 万m<sup>2</sup>以上

東京女子大学  
90105 m<sup>2</sup>



明治大学  
和泉キャンパス  
73349 m<sup>2</sup>



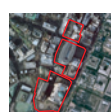
東京芸術大学  
上野キャンパス  
61880 m<sup>2</sup>



六本木ヒルズ  
89357 m<sup>2</sup>

5 万m<sup>2</sup>以上

明治学院大学  
白金キャンパス  
37958 m<sup>2</sup>



明治大学  
駿河台校舎  
22655 m<sup>2</sup>



法政大学  
市ヶ谷キャンパス  
22255 m<sup>2</sup>



順天堂大学  
12052 m<sup>2</sup>



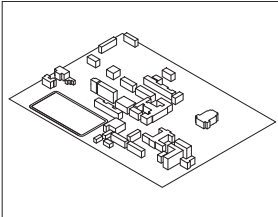
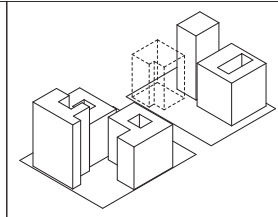
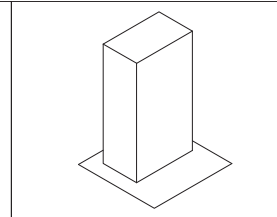
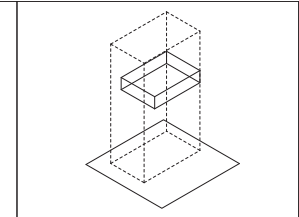
東京国際フォーラム  
27000 m<sup>2</sup>

1 万m<sup>2</sup>以上

■形態

次に、大学キャンパスの形態について見ていくこととする。大学キャンパスの形態は基本的には規模に応じて異なるが、複数の敷地を寄せ集めてひとつのまとまりとして大学キャンパスとしているものなど、いくつかの分類ができる。そこで、各大学 HP のキャンパスマップを参考に、以下のように分類をおこなった。

図 19 キャンパス形態分類

			
大規模型 大規模な敷地面積の中に複数の建物が集約されているタイプ。	街区型 街区単位に集約された建物敷地が複数集合してキャンパスを形成しているタイプ。	ビル型 一敷地一建物によってキャンパスを形成しているタイプ。	テナント型 建物の一部をキャンパスとして利用しているタイプ。

○大規模団地型

一つの大きな敷地の中に、複数の建物が集約されており、大規模団地のような構成をとっているもの。街路の進入が少なく、閉鎖的な形態。

○街区型

街区単位程の敷地が複数寄り集まって、その中に複数の建物が建って一つのまとまりとしてキャンパスを形成しているタイプ。街路の進入が多く、周辺地域に対して開放的な形態。

○ビル型

一つの敷地に一つの建物が建っているキャンパスのタイプ。キャンパス自体がビルの中にあるため、内部に入るとは難しく閉鎖的なタイプであるといえる。

○テナント型

建物の一部を大学キャンパスとして利用しているタイプ。部屋がキャンパスになっているもので、閉鎖的なタイプであるといえる。

これらが、どのような割合で存在しているかというと、以下のようなになる。

図 20 キャンパス形態分類表

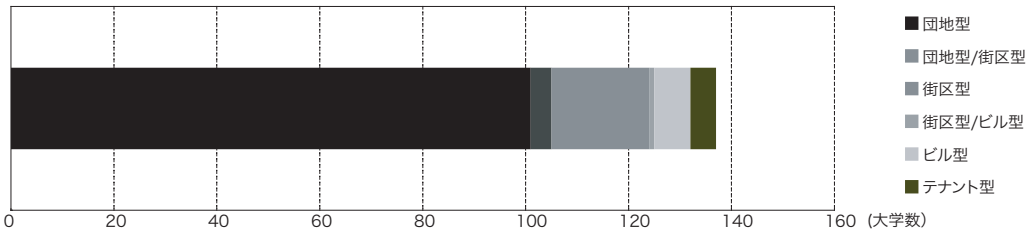


図21 キャンパスマップ分類

■団地型



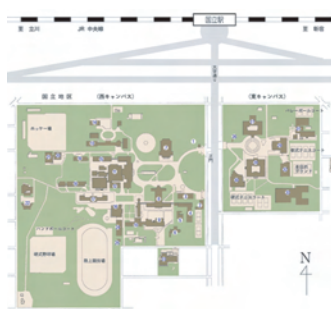
①上智大学 / 四谷キャンパス



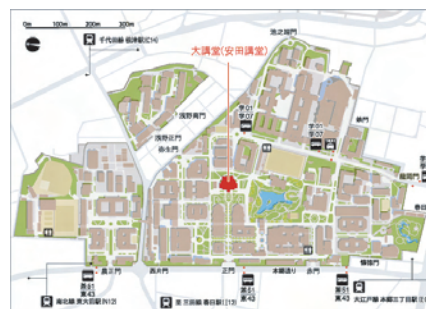
②慶應義塾大学 / 三田キャンパス



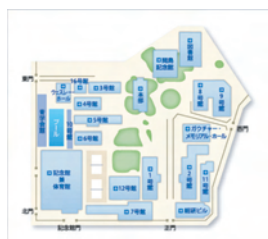
③多摩美術大学 / 八王子キャンパス



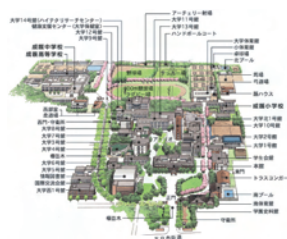
④一橋大学



⑤東京大学 / 本郷キャンパス



⑥青山学院大学 / 青山キャンパス



⑦成蹊大学



⑧東京造形大学

■街区型



⑨早稲田大学 / 西早稲田キャンパス



⑩東京理科大学 / 神楽坂キャンパス



⑪明治大学 / 駿河台キャンパス

■ビル型



⑫工学院大学

■テナント型



⑬デジタルハリウッド大学





先の表を見ると、大学キャンパスの多くが団地型の形態をとっており、閉鎖的な形態であることが分かる。そもそも、キャンパスの形態は2.2 歴史でも概観したように、場 / 部屋としての大学空間、建物としての大学空間、領域としての大学空間と変遷してきたわけだが、日本の大学キャンパスが大学の近代化以降にできたもので、その効率性からアメリカのキャンパス形式である領域としての大学空間を踏襲してきたことが分かる。ただし、アメリカの大学キャンパスの場合、周辺地域に対して開いた大学キャンパスであると言われており、日本の大学キャンパスとは異なっているとも言える。

データベースを元に、時代変化と形態の変化を見ると、団地型→街区型 / ビル型→団地型→ビル型→テナント型となっており、都心→郊外→都心という立地の変化と関連性があることがわかる。

## 2.5 開放性

本節では、大学キャンパスが周辺地域に対して開いているのかどうか、ということを明らかにする。大学キャンパスが開放的であればあるほど、一般住民の大学キャンパス内の利用が可能であるということになるが、閉鎖的であることの利点も存在する。大学キャンパスの閉領域としての価値に関しては、第4章で述べることにするが、本節で述べる開放性は大学キャンパスの特性としての開放性であり、大学キャンパスが周辺地域に対して持つ価値としての開放性ではないことを強調しておく。

大学キャンパスの開放性を調査するにあたって、39の大学に塀の有無、門の数、キャンパスへの一般入場の可否、平日開学時間、休日開学時間、図書館利用についてヒアリングを行った。39の大学は、立地、形態、共学・女子校、設立年代が分散するように抽出した。その結果のデータを次ページに載せる。

それぞれについて形態分類ごとに見ていくと、まず塀の有無に関しては以下ようになる。

図 22 塀の有無

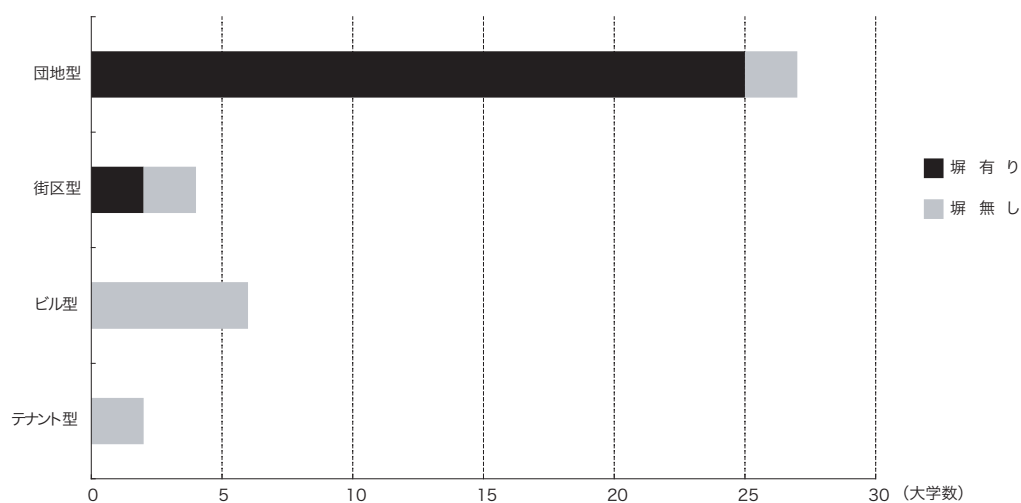


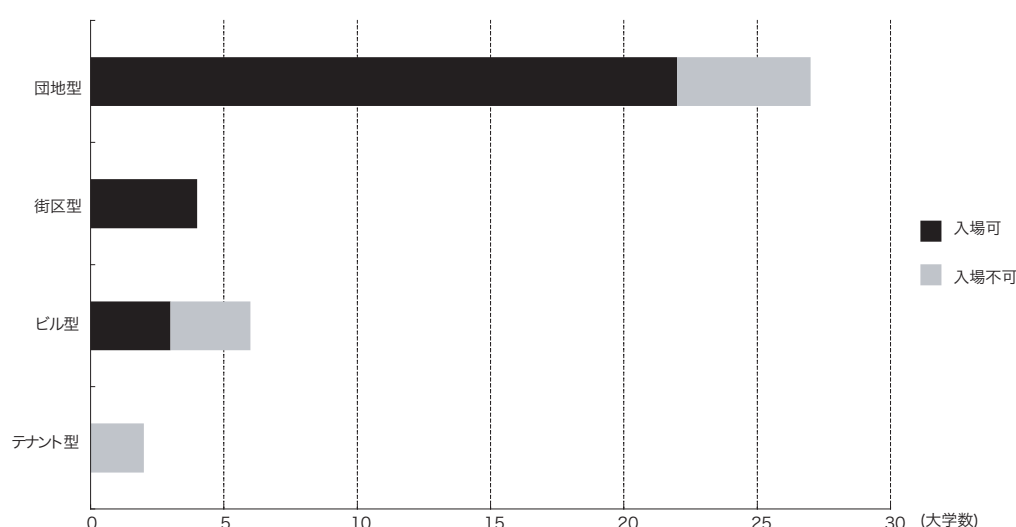
表1 大学キャンパスの開放性に関するヒアリングデータ

総番号	大学名	キャンパス名	形態分類	扉	門	キャンパス入場	建物入場	教室入場	開学時間	休日時間	図書館閲覧	図書館貸し出し
1	東京大学	本郷キャンパス	団地型	有	9	可			7:00~18:00		可	不可
2	東京大学	駒場キャンパス	団地型	有	7	可					可	不可
5	東京学芸大学	小金井地区	団地型	有	5	可			6:00~21:30	7:00~24:00	可	不可
8	東京芸術大学	上野キャンパス	団地型	有	4	可			6:00~20:00	x	可	不可
9	東京工業大学	大岡山キャンパス	団地型	有	3	可			終日	終日	可	可
12	お茶の水女子大学		団地型	有	3	不可						
14	一橋大学	国立キャンパス	団地型	有	1	可			終日	終日	可	不可
15	首都大学東京	南大沢キャンパス	団地型	有	3	可			7:00~23:00	7:00~23:00	可(東京都)	
18	青山学院大学	青山キャンパス	団地型	有	5	可			8:00~22:30	12:00~17:00	不可	
25	学習院大学	目白キャンパス	団地型	有	4	可			6:00~24:00	6:00~24:00	可	不可
34	慶応義塾大学	三田キャンパス	団地型	有	4	可			8:00~20:00	5:00~20:00	不可	
40	国際基督教大学		団地型	有	4	可			5:00~24:00	5:00~24:00	不可	
45	駒澤大学		団地型	有	1	可			7:30~22:30	7:30~22:30	可	可
47	実践女子大学		団地型	有	1	不可						
50	上智大学	四谷キャンパス	団地型	有	3	可			終日	終日	可(千代田区)	
61	成城大学		団地型	有	1	不可			8:00~23:00	8:00~23:00		
77	多摩美術大学	八王子キャンパス	団地型	有	1	可			8:00~21:10	8:00~17:10	可	不可
78	中央大学	多摩キャンパス	団地型	無	4	可			終日	終日	可	不可
100	東京女子大学		団地型	有	1	不可			6:00~24:00	8:00~	可	不可
109	東京薬科大学	目白キャンパス	団地型	無	1	可						
130	日本女子大学		団地型	有	2	可			7:00~20:00	x	不可	
149	武蔵野美術大学	和泉校舎	団地型	有	2	可			9:10~22:00	9:00~19:00	不可	
151	明治大学	池袋キャンパス	団地型	有	2	可			8:00~18:00(21:00)	x	可	不可
157	立教大学	大崎校舎	団地型	有	2	可					可	不可
163	早稲田大学	戸山キャンパス	団地型	有	1	可			8:00~22:30	x	一部可	
164	早稲田大学	大久保キャンパス	団地型	有	3	可			8:00~22:31	x	一部可	
66	専修大学		街区型	有	1	可			回答不可	回答不可	可	不可
117	日本大学	法学部	街区型	無	無	可			9:00~17:00	x	不可	
150	明治大学	駿河台校舎	街区型	無	無	可			7:00~23:00	x	一部可(千代田区)	
162	早稲田大学	西早稲田キャンパス	街区型	有	7	可			8:00~22:30	8:00~18:00	一部可	
37	工学院大学	新宿キャンパス	ビル型	無	無	可	可		7:30~22:30	7:30~22:30	一部可(新宿渋谷中野区)	
65	聖路加看護大学		ビル型	無	無		不可				無	
87	東京医療保険大学	世田谷キャンパス	ビル型	無	無		可		9:00~21:00	9:00~	不可	
88	東京医療保険大学	五反田キャンパス	ビル型	無	無		不可				不可	
114	二松学舎大学	九段キャンパス	ビル型	無	無		可				一部可(千代田区)	
115	日本大学	グローバル・ビジネス研究科	ビル型	無	無		不可				無	
83	デジタルハリウッド大学	学部	テナント型	無	無		可	不可			無	
		千代田キャンパス	テナント型	無	無		可	不可			有	

先に示したグラフより、ほとんどの団地型大学キャンパスが塀を有しており、門の数がそれほど多くないことを考えても閉鎖的な大学キャンパスが多いことが分かる。塀のない大学キャンパスは基本的に郊外に立地しており、森林に囲まれている場合が多く、塀を設ける必要がない場合が多いと考えられる。また、街区型キャンパスにおいて、塀がない大学キャンパスが半数を占めるのは、一つの建物に一つの敷地というビル型の形式のキャンパスが寄り集まって街区型を形成しているため、塀による入場の制限をかけなくても建物毎での制限をかけることが可能であるということに由来しているものと考えられる。基本的にこのような理由により、ビル型、テナント型に塀が存在していないと考えられる。

続いて、キャンパス入場について見てみることにする。

図 23 キャンパス入場



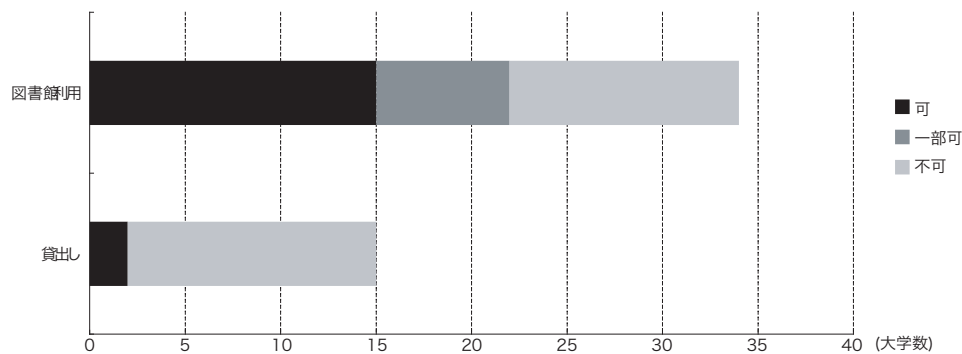
キャンパスの入場は、団地型、街区型に関しては、キャンパスの敷地に入ることができるかどうかを聞いており、ビル型に関しては建物内部に入ることができるか、テナント型に関しては、部屋に入ることができるかどうかに関して聞いている。

これを見ると、東京女子大や日本女子大のような女子校は入場できないが、基本的には団地型、街区型に関して言えば、大学キャンパスへの一般入場が可能であることが分かる。ビル型に関しては、建物内部への入場を許可するかどうかに関わってくる問題となるので、半数が入場を許可していないことは必然であると考えられる。逆に言えば、入場を許可している大学がいかに関放的であるかということになる。

次に、大学キャンパス内の施設利用として、図書館利用が可能であるかどうかについて見てみることにする。次ページの表を見ると、図書の閲覧に関しては、地域住民という制限がつきながらも可能である大学が多いことが分かるが、貸出しに関してはほとんどの大学が認めておらず、公共の図書館と比べると利用しにくい状況であると言える。

スポーツ施設等に関してはデータに載せていないが、ほとんどの大学が利用できない状況で、学生の利用時間の空き時間を利用できることになっている大学に関しても、ほとんどが学生に利用されており、空き時間が無い状況である。

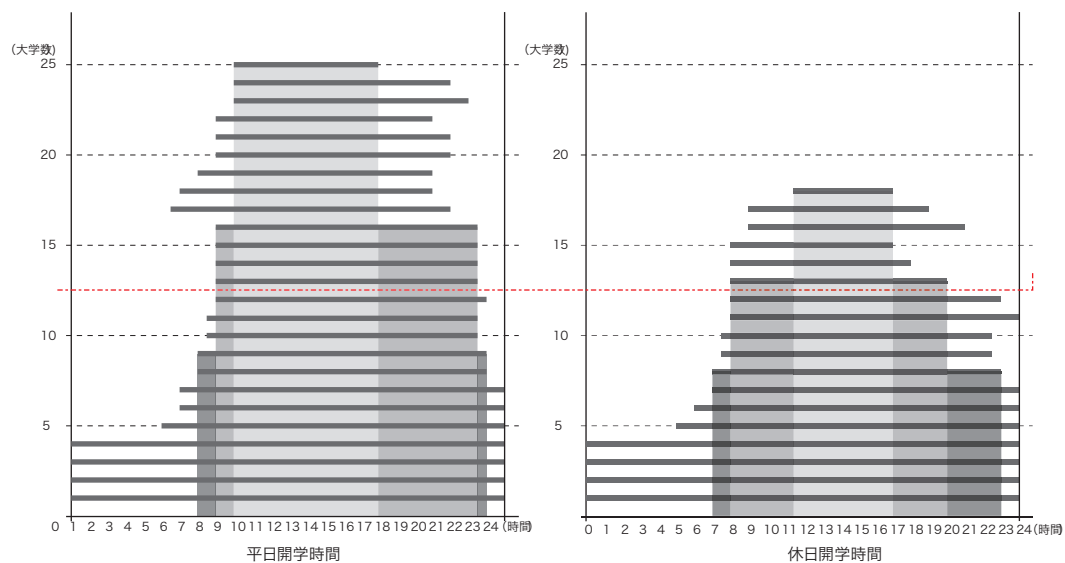
図 24 図書館利用



このように、大学キャンパスの施設利用という点で言うと、なかなか一般住民に開放するのは難しく、閉鎖的な状況になっているといえる。

最後に、大学キャンパスの開学時間について見てみることにする。

図 25 大学キャンパスの開学時間



この表は、開学時間について平均値をとることが難しいので、各キャンパスの開学時間を長いものから順に平日と休日に関して並べており、時間軸と大学数の2軸を元に作成されている。赤いラインはヒアリングの結果、回答を得られた大学数25大学の半数の値を示している。

これを見ると、平日利用に関しては、半数以上が8時から22時まで入場を許可しているが、休日利用に関しては半数が入場できないもしくは、限られた入場時間であることが分かる。これは、学生が通学する時間と関連して、大学キャンパスの入場が決められていることに起因することが分かるが、そのため、学生の通学しないとされている休日に関しては大学キャンパスを閉め切ってしまう場合が多いということになる。なお、ヒアリング中に分かったことであるが、夏期休業など大学の授業が休みになってしまう期間は大学キャンパスへの入場ができない大学があり、総合すればキャンパスが空いている時間は極めて少ない状況であると言える。

## 2.6 まとめ

本節では、歴史、立地・交通、規模・形態、開放性と個別に見てきたことを関連づけて、まとめることにする。

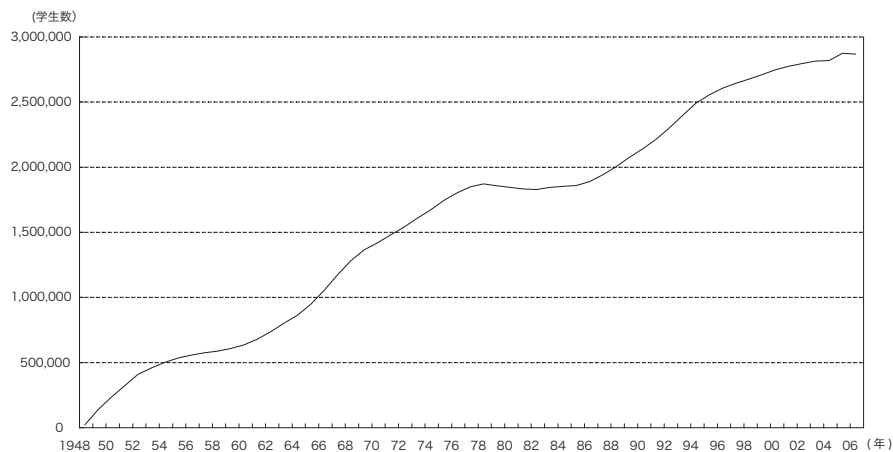
### ■都心と郊外

立地・交通、規模・形態、開放性で見てきたように、都心と郊外では大学キャンパスのあり方に大きな差があることが分かった。まず、立地・交通に関しては、都心→郊外→都心という変化が起きていることがわかり、キャンパスの拡大過程は鉄道の拡大とともに進んで変化していったことが分かる。また、都心では駅に近接した地域に大学キャンパスが立地するのにに対し、郊外では駅から離れた位置に大学キャンパスが立地していることが分かった。

次に、規模・形態に関しては、都心では1万㎡～5万㎡の大学キャンパスが数多く立地しているのに対し、郊外では5万㎡以上の大学キャンパスが多く存在していることが分かった。

そして、開放性に関しては、郊外の大学では塀のないキャンパスがあるなど、ビル型、テナント型のある都心と比べると開放的であることがわかった。

図 26 大学学生数変化



上のグラフを見ると分かるように、ベビーブームに起因する1970年代頃あたりからの学生数の急激な増加が見て取れる。つまり今までのことをまとめると、学生数の増加に従い、キャンパスの拡張が必要となるが、工場等制限法により都心にキャンパスをつくるのが難しくなり、郊外へキャンパス移転がなされたことがわかる。しかし、郊外へのキャンパス移転の際、学生数の増加に対応するだけの広大な敷地を求めた結果、駅周辺に広がる市街地とはかけ離れた場所に立地することになった。そして、市街地からかけ離れた結果、塀等をつくって閉鎖性をつくりだす必要がなくなり、大学キャンパス自体は開放的なものになったと言える。

### ■大規模団地

大学キャンパスの規模・形態で見てきたように、大学キャンパスは東京において大規模な敷地を有しており、一つの敷地に複数の建物を有するという団地型をなしていることがわかった。これは、大学キャンパスが大規模団地として存在しており、大規模商業施設や大規模公園などと同じだけのインパクトをもったものとしてその地域に存在していると言える。



### ■閉領域

立地・交通、規模・形態、開放性に関して見てきたように、大学キャンパスが東京において市街地との関連性が低い、もしくは開放性が低いものとして存在していることが分かる。これは、大学キャンパスが閉領域として存在していると言える。

閉領域として大学キャンパスが存在することは、陣内秀信の『東京の空間人類学』や中沢新一の『アースダイバー』などによって述べられている。『東京の空間人類学』では、大学キャンパスが西洋の軸線・シンメトリーを輸入するにあたって、日本の寺社建築の形式があったから違和感を覚えること無く西洋の輸入が可能であったことを述べた上で、その証拠にモニュメントが西洋と異なり、奥に配置されるという形式をとっていることが述べられている。これはつまり、大学キャンパスが寺社建築の奥性を持っており、アジールとしての閉領域を形成していることを意味する。

また、『アースダイバー』では、慶應義塾大学の三田キャンパスや早稲田大学の西早稲田キャンパスや青山学院大学の青山キャンパスが寺社建築や墓地の側に存在することを説明し、大学キャンパスが死霊にまもられて存在しているのではないかと指摘している。さらに、中沢はその原因が大学キャンパスのアジールにあるのではないかとしており、大学キャンパスが治外法権的に存在していることを述べている。これは、大学キャンパスがその領域を守るために閉領域をなして存在していることを示している。

このように、大学キャンパスはキャンパス内部を守るという観点から、閉領域として存在してきたことが分かる。昨今、大学キャンパスは周辺地域に対して開いたものとして存在することに目を向け始めているが、そもそも大学キャンパスが閉領域として存在してきたのであれば、閉領域としての価値にも目を向ける必要があるように思われる。

### ■まとめ

以上をまとめると、

- ・大学キャンパスは都心→郊外→都心へと変遷してきており、都心と郊外において規模や市街地関連性と言った点で大きな差異があることがわかった。
- ・また大学キャンパスは東京という都市において、大規模団地として存在しているにもかかわらず閉領域として存在していることがわかった。

これらを踏まえた上で、次章において大学キャンパスが周辺地域からどのように評価されているのかを見ていくこととする。

---

## 第3章 大学キャンパスの評価

### 3.1 はじめに

本章では、大学キャンパスが周辺地域においてどのように評価されているか、またどのようなイメージをもたれているかについて、メディアを対象にして見ていくことにする。ここで言うメディアとは、本論が街における大学キャンパスの影響を扱うものであるため、街における施設の紹介、もしくは住民の街の評価などを載せているタウンガイドの事を指している。

### 3.2 評価対象

大学キャンパスの周辺地域における評価とイメージを明らかにするために、タウンガイドを参考にして分析を行う。対象とするメディアは、雑誌、Web サイトから選択した住民系メディア、名所系メディア、エンターテインメント系メディアの3つとする。3つのメディアを選ぶにあたっては、地域毎に記事が紹介されているものを選ぶことで、地域における大学キャンパスの影響を把握できるようにした。また、3つのメディアとも地図が付されており、その地域にある大学がわかるようになっている。

#### ■住民系メディア

賃貸・分譲・土地など不動産物件を紹介しているタウンガイドで、住民自らによる街の評価がなされているものを指す。

図 27 「住宅情報ナビ / 気になる街の暮らしレポート」紹介記事の事例



エリア名

エリアの紹介

月毎にその街の中心施設・名所等を紹介している。

TOPICS で紹介できなかった他の施設の紹介

住民にとっての街の魅力を紹介



エリアにおける生活に必要な公共施設を  
紹介

エリアを地図で表示

## ■名所系メディア

商業施設だけでなく街の名所なども紹介しているメディアを指す。

図 28 『散歩の達人 東京都心散歩』『散歩の達人 東京下町散歩』紹介記事の事例



エリア名

各施設について一つの記事で紹介している。

## ■エンターテインメント系メディア

商業施設を中心に新しくできた施設を中心に紹介しているメディアを指す。

図 29 『るるぶ MAP 東京』 紹介記事の事例



以上3つのメディアを用いて、大学キャンパスが周辺地域においてどれだけの評価がなされているのかについて見ていくこととする。

### 3.3 大学キャンパスのイメージ

3.2 で挙げたメディアを元に、周辺地域に対して大学キャンパスがどのようなイメージを持っているのかについて本節では分析をする。分析の方法に関しては、以下のような方法によって行った。

#### ■分析方法

- ・『住宅情報ナビ 気になる街の暮らしレポート』

大学 / 学生の単語が含まれた一文を抜き出し、関連する単語からキーワードの分類を行った。

- ・『散歩の達人 東京都心さんぽ』『散歩の達人 東京下町さんぽ』

各施設の紹介で大学 / 学生に関連する記事を抜き出し、紹介されている施設を分類した。

- ・『るるぶ MAP 東京』

各施設の紹介で大学 / 学生に関連する記事を抜き出し、紹介されている施設を分類した。

以上のように、大学 / 学生に関する記事から、関連語を分類し、その数を集計した。

次ページにその集計結果を載せる。



表2 「住宅情報ナビ 気になる街の暮らしレポート」大学イメージデータ

地域名	大学数	大学関連評価	記事年
東京・日本橋	6	なし	
新橋・内幸町	4	なし	
浜松町・三田	3	なし	
品川・高輪	3	なし	
恵比寿・代官山・広尾	4	なし	
表参道・青山	4	なし	
新宿・大久保・高田馬場	7	近くに大学や専門学校が多く、学生たちでにぎわうことも。 早稲田大学の学生や地域住民に、長い間親しまれている商店街。 大久保・高田馬場は古からの学生街のなごりを随所に残している。 早稲田大学の学生や地域住民に、長い間親しまれている商店街。	2006/03 2006/03 2006/03 2006/03
池袋・目白	6	なし	
大塚・巣鴨	3	定食屋が数多くある大塚周辺でも特に学生やビジネスマンに人気で、ランチタイムには行列ができる。	2006/08
駒込・白山・千石	4	近隣住民のオアシス「小石川植物園」東京大学理学部附属の植物園～	2004/09
秋葉原・神田・御茶の水	7	なし	
後楽園・本郷	14	周辺には、水戸藩邸の敷地の一部だったといわれる小石川後楽園や、小塚の武家屋敷、伝通院などの重要文化施設をはじめ、東京大学や中央大学など、教育施設も充実。 歩くのが好きなので、休日には夫と小石川植物園や拓殖大学のキャンパスなどで散歩を楽しみます。 夜間でも受け付けOKの大学病院が心強い「慶文堂医院」や東京大学医学部附属病院は、夜間でも診療を受け付けてくれるし、診療科目もたくさんあって助かります。 一世帯を経ても変わらない素晴らしい味が、本郷に暮らす人々をはじめ、東京大学の学生たちにも愛されている。 周辺に大学や公園が多いせいか、とても静かで暮らしやすく気に入っています。 大学も多く治安がいいのも魅力的ですね。	2006/04 2006/04 2006/04 2006/04 2005/07 2005/01
新宿御苑前	5	なし	
麹町・赤坂・永田町	5	外国人観光客や合格祈願に訪れる学生、おみくじを引くサラリーマンの家なども見られる。(靖国神社) 賑わいは駅内でのみだが、満18歳以上なら誰でも利用可能なため学生の利用も多い。	2005/03 2004/11
中野坂上・中野・方南町	3	なし	
六本木・麻布	5	なし	
銀座・築地	3	なし	
神楽坂・飯田橋	10	なし	
九段下・神保町・水邊橋	9	明治時代に次々と有名大学が開校したことで、学生を相手にした書店も数多く誕生した。 昭和30年の創業当時から変わらぬたたずまいで、学生や作家、街行く人々の憩いの場所となっている。	2006/10 2006/10
月島・門前仲町	4	なし	
水天宮前・人形町・浅草橋	3	なし	
白金高輪	6	なし	
渋谷・原宿	4	なし	
初台・管理・代々木上原	6	なし	
信濃町・千駄ヶ谷	5	学生野球の聖地「明治神宮野球場」大正15年に設立されて以来、大学野球のメッカとしても有名だ。 やんちゃ盛りの子どもがいるんですが、怪我をしなくても近くに慶応大学病院があるので安心です。 多くの大学が集まる閑静な街並みは、森緑外をはじめとする多くの文豪たちに愛されてきた。	2006/06 2005/01
四谷	3	上智大学/英独仏を始め11カ国語に関する講座があり、登録すれば誰でも受講することができる/中央大学 市ヶ谷キャンパス/どちらもキャリアアップを目指す社会人を受け入れている。 その四谷キャンパスは四ツ谷駅の目の前に位置し、多くの学生が行き交う。	
通鳥・根津	8	多くの大学が集まる閑静な街並みは、森緑外をはじめとする多くの文豪たちに愛されてきた。	
田端・日暮里	5	そのため、近所に住む主婦はもちろん、遠方からもスタイリストや服飾関係の学校に通う学生などが多く集まる。(日暮里編組館) 「東京芸術大学大美術館」へ行こう！美術を志す人なら誰もが憧れる名門・東京芸術大学。	2005/12 2005/06
上野・御徒町	6	なし	
越中島・豊洲	3	特に豊洲駅周辺は再開発計画により、芝浦工業大学の移転、築地市場の移転、あらたな住宅エリア、商業エリアの開発が進んでいるなど、これからが楽しみな街だ。 海に面した広大な東京海洋大学の敷地内で、国民休日のひとつである「海の日」とゆかりのある「明治丸」を見学することができる(明治丸)	2006/11 2004/12
住吉・錦糸町・両国	0	なし	
浅草・入谷	1	なし	
南千住	0	なし	
木場・東陽町	2	なし	
葛西	0	なし	
北千住	0	なし	
押上・曳舟	0	なし	
亀有・青砥	0	なし	
大島	0	なし	
船堀・瑞江	0	なし	
金町・柴又	0	なし	
平井・小岩	0	なし	
梅島・竹ノ塚	0	なし	
王子・西ヶ原	2	そのため、車のせわしない音や雑踏から隔離されている感じがして、お弁当を広げる近所の会社員や絵を描きに来る学生なども多く、憩いの場としても人気になっている。(音無観水公園)	2005/03
千川・小竹向原・江古田	5	東町駅前には立教大学、江古田駅周辺には日本大学芸術学部や武蔵野音楽大学、武蔵大学(等真)などが集まり、学生の街として昔から変わらぬにぎわいを見せている。	2006/02
氷川台・平和台	3	なし	
練馬・光が丘	0	なし	
新井薬師前・野方・宮ノ宮	3	東洋大学の創始者である井上園博士が開いた公園。旧哲人館大学の創設を記念して、新堀、孔子、カント、ソクラテスの四聖をまつた聖堂があることから哲学公園と呼ばれている。(哲学堂公園)	2005/03
井坂・小神井	2	はじめは400mトラックとデニースコートだけだったが、その後運動場ができ、プロ野球チームの本拠地や六大学野球大会の開催地としても活用されるようになった。(杉並区上井草スポーツセンター)	2005/01
板橋・西巣鴨	4	平日は社会人や大学生のチームが利用し、休日には少年野球チームが練習をすることが多い。(比叡中央公園)	2006/07
赤羽・十条	2	なし	
本郷沼・志村坂上	1	「国立西が丘サッカー場」客席数は約9000、全国高校選手権、全国大学選手権、Lリーグ(女子サッカー社会人リーグ)、天皇杯、などさまざまな試合が行われる。	2004/10
蓮根・高島平	1	なし	
石神井公園・保谷	1	使用料もお手ごろなので、地元の学生からお年寄りまで、幅広い年代の人たちに利用されている。	2006/09
ときわ台・東武練馬	2	東京文理大学(後の東京教育大・現筑波大)の運動グラウンド跡地を整備したもので、陸上トラックの部分を自由広場として広いスペースが確保されている。	2005/02
成増・和光市	1	なし	
高円寺・阿佐ヶ谷	1	なし	
明大前・下高井戸・桜上水	3	大学のキャンパスが点在する、都心に直結した便利なエリア アクセスがいいだけでなく、活気あふれる市場が魅力の下高井戸、学生向けの割安な飲食店が豊富な明大前、名前の通り春には桜並木が一斉に花開く桜上水と、それぞれの街に独自のカラーがあるのも特徴だ。 夕方になると、新鮮でお値打ち価格の食材を求める主婦と学生に会社帰りのサラリーマンも入り混れ、ものすごい活気に包まれる。(下高井戸駅前市場) 明大前は駅前こそ学生でいっぱいですが、少し離れると昔から住むお年寄が多い。	2005/11 2005/11 2004/11 2004/09
永福町・浜田山	3	なし	
高井戸・久我山	1	なし	
荻窪	0	なし	
大塚・五反田・目黒	4	なし	
西馬込	0	森峰の師で、同志社大学の創立者でもある新島襄が米国から土産に持ち帰ったという説があり、2人の深い師弟愛を象徴する木として大切に保存されている。(森峰公園)	2006/09
中延・戸越	4	江戸時代初期に造られた庭園が眺められる「戸越公園」や、大正時代の建物が残る「星薬科大学」がおすすめ。	2005/06
大井町	1	なし	
平和島・大森	0	なし	
蓮田・梶谷・大島屋	0	美術大学の学生や書道家などもたびたび訪れるという。(ユザワ屋)	2005/08
洗足池・雪が谷大塚・御嶽山	2	なし	
千鳥町・池上・下丸子	0	なし	
武蔵小山	3	なし	
北千束・大岡山	3	また、駅の南側には東京工業大学のキャンパスがあり、周囲には学生の姿も多くて活気に満ちている。	2006/06

表3 『散歩の達人 東京都心さんぽ』大学イメージ集計

地域	大学数	大学・学生街	評価
銀座・日比谷	0	なし	
新橋・汐留	0	なし	
芝・浜松町	1	なし	
皇居・丸の内	0	なし	
四ツ谷・麹町	5	上智大学聖イグナチオ教会	文化施設
巣鴨・駒込	1	なし	
本郷・小石川	8	東京大学	歴史性
		東京大学小石川植物園	文化施設
		食堂もりかわ	商業性
		御菓子処扇屋	商業性
		喫茶ルオー	商業性
		万定フルーツバーラー	商業性
神楽坂	1	なし	
市ヶ谷・九段	7	なし	
御茶ノ水・湯島	9	御茶の水楽器街	商業性
上野公園	1	なし	
赤坂	1	なし	
白金・高輪	2	なし	
麻布・広尾	1	なし	
恵比寿・代官山	1	なし	
渋谷・松濤	2	なし	
青山・表参道	2	なし	
新宿・大久保	1	なし	
早稲田・江戸川橋	4	源兵衛	商業性
		早稲田大学大隈庭園	オープンスペース性
		早稲田古書店街	商業性
		プランタン	商業性
		カフェコルベージュ	商業性
		高田牧舎	商業性
池袋・雑司が谷	1	なし	
	17	4	

表4 『散歩の達人 東京下町さんぽ』大学イメージ集計

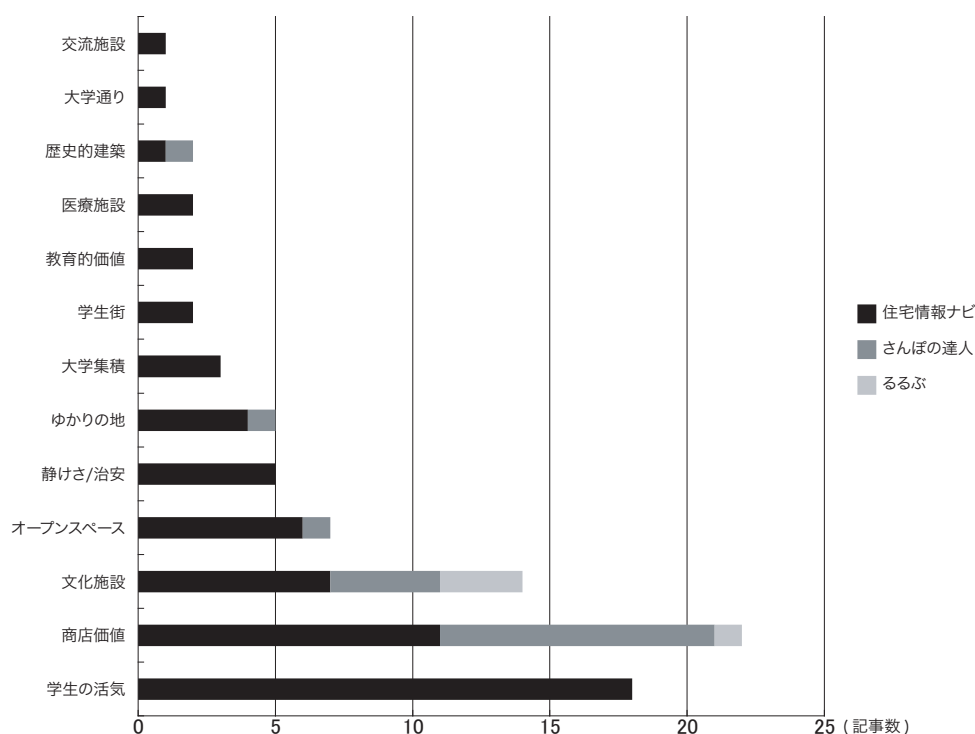
地域	大学数	大学・学生	評価
浅草	0	なし	
かつば橋・田原町	0	なし	
浅草橋・蔵前	0	なし	
三ノ輪・南千住	0	なし	
北千住	1	なし	
両国	0	なし	
上野・アメ横	0	なし	
谷中・根津・千駄木	3	早稲田大学朝倉彫塑館	ゆかりの地
根岸・入谷	1	なし	
日本橋・人形町	0	なし	
神田	7	なし	
月島・佃島	2	なし	
深川・門前仲町	1	東京海洋大学明治丸	文化施設
堀切・四ツ木・立石	0	なし	
向島・曳船	0	なし	
金町・柴又	0	なし	
町屋	0	なし	
錦糸町・亀戸	0	なし	
赤羽・十条	1	なし	
王子	0	なし	
蒲田・池上	1	なし	
戸越銀座・武蔵小山	2	星薬科大学薬用植物園	文化施設
	9		3

表5 『るるぶ MAP 東京』大学イメージ集計

地域	大学数	大学・学生	評価
新宿	1	なし	
歌舞伎町	0	なし	
初台	0	なし	
渋谷	1	なし	
宮益坂	0	なし	
青山・表参道	0	なし	
神宮外苑	1	なし	
南青山	0	なし	
六本木・西麻布・麻布十番	0	なし	
広尾	1	なし	
代官山・恵比寿	0	なし	
目黒	1	なし	
赤坂・溜池	0	なし	
池袋	1	なし	
東京駅・日本橋	0	なし	
銀座	0	なし	
日比谷	0	なし	
新橋・汐留	0	なし	
品川	1	なし	
お台場・有明	0	なし	
豊洲	0	なし	
御茶の水・神田	9	日本大学カザルスホール	文化施設
		明治大学博物館	文化施設
		サボウル	商業性
蔵前橋・神楽坂	3	東京理科大学近代科学資料館	文化施設
後楽園	3	なし	
大久保	0	なし	
下北沢	0	なし	
吉祥寺	0	なし	
自由が丘	0	なし	
二子玉川	0	なし	
三軒茶屋	0	なし	
人形町	0	なし	
築地	0	なし	
根津・千駄木	1	なし	
上野	0	なし	
浅草	0	なし	
	11		2

以上の結果をまとめると、以下のようなグラフになる。

図 30 大学キャンパスのイメージ総計



これを見ると、商店立地、学生の活気が大学キャンパスのイメージとして大きな割合を占めていることが分かる。これらは学生街的性格を持った、周辺地域に対する波及的価値であると言える。文化施設もまた大きな割合を占めているが、大学キャンパスの外部施設であるため、大学キャンパス自体の価値ではないと言える。大学キャンパス自体の価値としては、オープンスペース、教育的価値、歴史的建築、交流施設といったものであるが、高い評価を得ていないことが分かる。

このような大学キャンパス周辺への波及的価値が高い評価を得ているのに対し、大学キャンパス自体の価値が低い評価になっている原因には、第2章で述べたように大学キャンパスの閉領域としての特性が影響しているように考えられる。というのは、商店価値や文化施設の価値が、大学キャンパスの外部に存在しており、大学キャンパスがいくら閉領域を形成していたとしても、周辺地域の住民にとっては価値を持ちうるものであるのに対し、オープンスペースや歴史的建築というのは大学キャンパス内部に存在するものであり、大学キャンパスが閉領域を形成している場合には周辺地域の住民にとって価値を持ちにくいという問題を持っているからである。

しかし、だからといって大学キャンパス自体が周辺地域にとって文化的価値を持たないものであるとは言えず、昨今の大学を周囲に開こうとする動きから考えれば、大学キャンパスが周辺地域に対して持つ価値自体を再認識もしくは再発見することが、今後の大学キャンパスと周辺地域の良好な関係を築く上で、重要なことであるように思われる。本論の主眼もそこにあり、それについては第4章で詳しく見ていくこととする。



### 3.4 大学キャンパスの評価

3.3の最後で述べたように、本論の主眼が大学キャンパスが周辺地域に対して持つ価値にあるのだとしても、他の施設と比較した際、大学キャンパスがどれだけの価値を持っているかについては見ておく必要があると考えられる。そこで、本節では、周辺住民の評価としてわかりやすい『住宅情報ナビ 気になる街の暮らしレポート』を対象にして、他の施設の評価と大学キャンパスの評価の割合がどれだけあるのかということについて見ていくことにする。

#### ■分析方法

『住宅情報ナビ 気になる街の暮らしレポート』では、主にエリアを紹介する記事、主要施設を紹介する TOPICS の記事、その他施設を紹介する記事、住民が街の魅力を紹介している記事の4種類の記事が一つの地域について載せられている。それらの記事から紹介されている施設を分類していくことで、他の施設と大学の評価の割合を比較した。基本的に、TOPICS とその他の施設の紹介の記事では、紹介されている施設は街にとってプラスの評価をしているものとみなしたが、他の記事に関しては文脈との関係からプラスの評価をしているものだけを数えた。分類した名称と施設を以下に示す。

- 商店・飲食店：独立した店舗で、大規模でないもの。レストラン、喫茶、個人商店。
- 商業施設：商業に特化した大規模施設。デパート、ショッピングセンター、駅ビルなど。
- 文化施設：公共的なものも含め、文化的な用途を持つ施設。劇場、ホール、図書館、美術館。
- スポーツ・レジャー施設：運動場、体育館、スポーツクラブ、動物園、遊園地、映画館など。
- 医療施設：病院、医院。
- 宿泊施設：旅館、ホテル。
- 複合施設：多用途の施設が複合して入っている。ミッドタウン、キャロットタワーなど。
- 商店街：○○商店街と表記されているもの。ショッピングモールも含む。
- 公園・庭園：一定の領域を形成し、公園、庭園と表記されているもの
- 地形・景観・自然環境：緑道、遊歩道、並木、坂、河川、眺望など。
- 名所・旧跡：その地域において有名な場所・物、歴史的由来のある場所・物。
- 祭り・イベント：特定の時期に行われる催し。
- 宗教施設：寺社、教会、墓地。
- 公共施設：自治体等の設置によるもので、文化・スポーツ・レジャー施設及び公園・庭園を除いたもの。区役所、保育園、児童館、福祉施設。
- 交通機関・交通アクセス：バス、駅などの交通機関と交通の利便性。
- 企業：会社などのオフィスビル。
- 大学：大学そのものと大学関連施設。
- その他学校：小・中・高校と専門学校。
- その他：団地、再開発など。

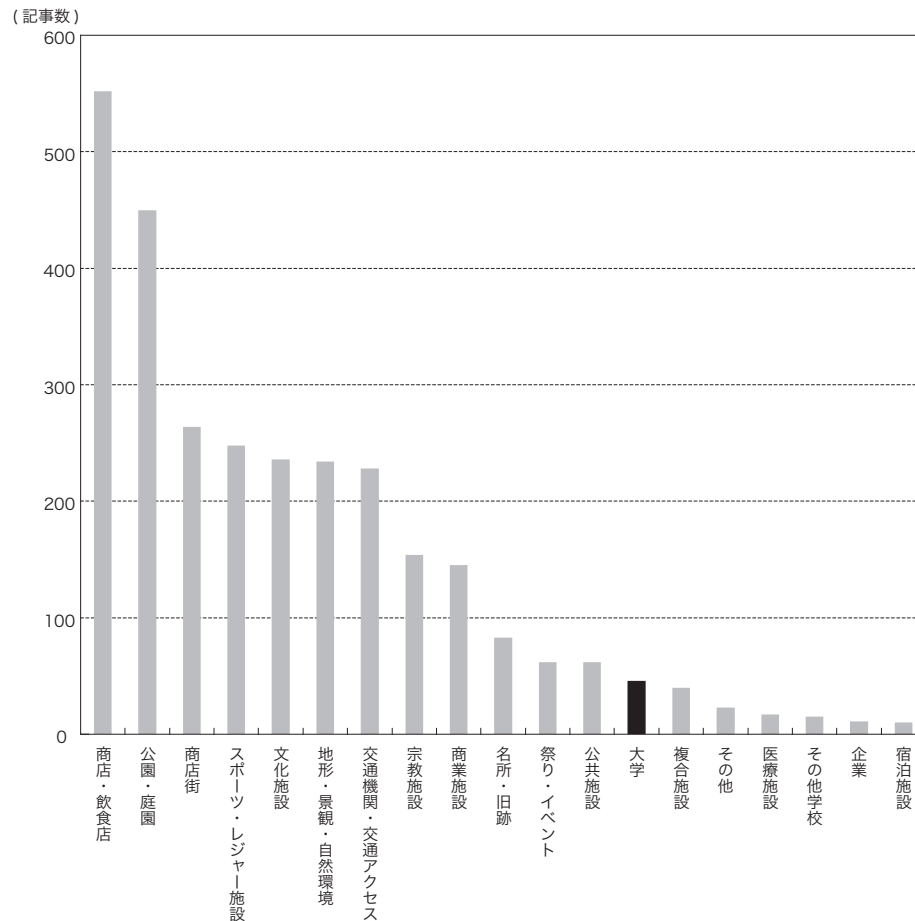
表 6 大学評価記事の事例

記事属性	分類・数	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	エリア紹介/イベントビュー		文章
1:個別 2:横断的		商店・飲食店																					
	2		1													1							
	2	3																					
	2		1																				
	2																						
	2		1																				
	2																						
	2		1																				
	2	1																					
	2	1																					
	1																						
	1															1							
	1																						
	1																						
	1																						
	1																						
	1																						
	1																						
	1																						

## ■分析結果

分析結果を以下に示す。

図 31 施設評価記事数



これを見て分かるように、大学が周辺地域においてそれほど高い割合で評価されていないことがわかる。これは、イメージでも述べたように、大学キャンパスの閉鎖性からそれほど高い評価を受けにくいという現状があると言える。

### 3.5 まとめ

以上、第3章で見てきたことをまとめると、以下のようになる。

- ・大学キャンパスのイメージとしては、学生街的価値が高く評価されており、大学キャンパス自体のもつ価値についての評価が少ない。
- ・大学キャンパスについては、他施設に比べるとそれほど高い割合で評価されていない。

これらは、指摘してきたように、大学キャンパスの閉鎖性故に周辺住民に評価を得にくい状況であることに起因すると考えられる。しかし、イメージで見たように、大学キャンパスの持つ価値は多様にあり、それら文化的価値を第4章で解明していくことにする。